

数ヶ月前からの腹痛

症例

70歳代、女性。

数ヶ月前からの腹痛で近医で加療を行うも改善せず来院された方です。診察上軽度の側腹部圧痛のみで反跳痛はみられませんでした。所見は強くないものの、腹部CT検査を行ったところ下行結腸に腫瘤が疑われる所見を認め、総合病院へ紹介し下行結腸癌の診断で迅速に手術が試行された1例でした。軽微な症状でも症状が遷延する場合にはCTなどの画像検査を考慮すべきと実感した症例でした。

CT検査所見

下行結腸に長径約7.5cmに渡る壁肥厚が見られ、複数の憩室、結腸周囲脂肪組織の濃度上昇が見られた。また単純像のみの評価ではあったが近傍に多数のリンパ節腫大を示唆する結節が見られた。CT所見としては、憩室炎と腫瘍の併発が疑われた。尚手術時に確認されたS状結腸癌は後方視的に見ても不明確であった。

単純CT



単純CT冠状断



手術所見

開腹後、下行結腸癌の横行結腸浸潤とS状結腸癌を認めた。また下行結腸癌は近傍に膿瘍を認めた。左半結腸切除、R3リンパ節郭清、機能的端々吻合、器械吻合術を試行。AN4/PMD/DM0/RM0/R0/CurA、#231 #232 #241 #242 #253 (all negative) 下行結腸癌；type2,70x55mm,環周率100%,T4b(S横行結腸),sNO cMO sStage IIc S状結腸癌；type2. 66x50mm, IRH 100%, T4a(SE). sNO cMO, sStage IIb (大腸癌取り扱い規約 第9版)